

ポストコロナ時代における 赤十字血液センターによる効果的な献血確保策の先進事例に関する全国調査結果報告

研究代表者 田中 純子^{1,2)}
研究分担者 鹿野 千治³⁾、秋田 智之^{1,2)}
研究協力者 杉山 文^{1,2)}

- 1) 広島大学 大学院医系科学研究科 疫学・疾病制御学
- 2) 広島大学 疫学&データ解析新領域プロジェクト研究センター
- 3) 日本赤十字社 血液事業本部

研究要旨

2020年以降、新型コロナウイルス感染症パンデミックの社会的影響により、献血者数の減少と輸血用血液製剤の不足が懸念された。しかし実際には、2020年度・2021年度・2022年度の献血者数は、2019年度（コロナ禍前）の献血者数を上回っていた（2019：493万人、2020：504万人、2021：505万人、2022：499万人、血液事業年度報より）。この実績の背後には、全国の赤十字血液センターにおける多岐にわたる取組みと、並々ならぬご尽力があったものと考えられる。

各血液センターが行ってきた取り組みや工夫を全国規模で把握し、可視化・共有することで、今後の献血促進策に貢献したいという目的から、厚生労働省医薬・生活衛生局血液対策課と日本赤十字社血液事業本部の協力を得て、当研究班では、新型コロナウイルス感染症パンデミックの社会的影響下における赤十字血液センターの取り組みに関する全国調査を企画・実施した。

以下の結果を得た。

1. 全国47都道府県の赤十字血液センター（N=47）を対象としたオンライン自記式アンケート調査を実施した。各血液センターにおいて、献血確保のための活動に従事する担当者を調査の対象者とした。
2. 31都道府県の血液センターから回答を得た（回答率66%）
3. 新型コロナウイルス感染症パンデミックが始まった2020年度に、年間献血者総数の減少が認められたのは、31都道府県の血液センターのうち4センターのみだった。一方、残りの27都道府県（87%）においては、献血者総数はむしろ増加していた。人口変化の影響を考慮するために、15-69歳人口千人当たりの献血者数（献血率）を年度別に比較した。その結果、29カ所の赤十字血液センター（93.5%）で、2020年度の献血率は2019年度と同等以上であった。
4. コロナ禍において（2020年以降）、新たに始めた活動として最も多かったのは「SNSを含むインターネットでの呼びかけ（55%）」、強化した活動として最も多かったのは「企業を対象とした取組み（55%）」であった。中止または縮小した活動として最も多かったのは「幼少期の子どもとその親と一緒に献血に触れ合える体験学習の実施（55%）」であった。効果的だったと思う活動については、「テレビ・ラジオでの呼びかけ」が最も多く29%、次いで「献血推進のための独自のキャンペーンの実施（26%）」、「企業等を対象とした取組み（13%）」であった。「企業を対象とした取組み」の具体的な内容としては、新たな企業・団体への協力依頼、企業・団体へのチラシ配布やポスター掲示依頼、事前予約の強化などであった。

5. コロナ禍において（2020年以降）新たに始めた環境整備として最も多かったのは「採血所での検温・手指消毒（90%）」、強化した環境整備として最も多かったのは「WEB予約システムの推進・普及（68%）」であった。効果的だったと思う環境整備については、「採血所の収容人数を制限」が最も多く23%であり、次いで「商業施設等への献血バス配車（19%）」「事前予約の推奨（19%）」であった。「商業施設等への献血バス配車」については、「受け入れ企業が減ったため、商業施設への配車を増やした」「コロナ禍においても安定的な協力が得られたため、積極的に配車した」などの具体的回答が寄せられた。
6. コロナ禍での経験が、その後の献血確保策に与えた良い影響としては、「事前予約制の普及・定着」を指摘する意見が特に多かった（15/20）。主成分分析の結果からも、「事前予約の普及・定着」「独自キャンペーン」は、コロナ禍後の献血者数（人口千人対）の増加に関連性の強い因子であった。

以上より、

本研究では、全国47都道府県のうち31都道府県の赤十字血液センターから回答を得て、新型コロナウイルス感染症パンデミックの社会的影響下における赤十字血液センターの取り組みについて明らかにした。

2020年当時、パンデミックによって社会的にきわめて困難な状況であったにもかかわらず、93.5%（29/31）の血液センターでは、献血率をパンデミック前の水準以上に維持していた。「テレビ・ラジオでの呼びかけ」、「献血推進のための独自のキャンペーンの実施」、「企業等を対象とした取組み」、「採血所の収容人数を制限」、「商業施設等への献血バス配車」、「事前予約の推奨」などが特に効果的な取組みとして報告された。コロナ禍での経験が、その後の献血確保策に与えた良い影響としては、「事前予約制の普及・定着」を指摘する意見が特に多く、主成分分析の結果からも、「事前予約の普及・定着」「独自キャンペーン」は、コロナ禍後の献血者数（人口千人対）の増加に関連性の強い因子であった。

本報告書では、各センターにおける具体的な取組みを整理して掲載した。各センターにおける効果的な取り組みが全国に共有されることで、今後の献血促進策の一助となることが期待される。

A. 研究目的

2020年以降、新型コロナウイルス感染症パンデミックの社会的影響により、献血者数の減少と輸血用血液製剤の不足が懸念された。しかし実際には、2020年度・2021年度・2022年度の献血者数は、2019年度（コロナ禍前）の献血者数を上回っていた（2019：493万人、2020：504万人、2021：505万人、2022：499万人、血液事業年度報より）。この実績の背後には、全国の血液センターにおける多岐にわたる取組みと、並々ならぬご尽力があったものと考えられる。

これまでに全国の各血液センターが行ってきた取り組みや工夫を具体的に可視化し、共有することで、今後の献血促進策に貢献したいという目的から、厚生労働省医薬・生活衛生局血液対策課と日本赤十字社血液事業本部の協力を得て、当研究班では、新型コロナウイルス感染症パンデミックの社会的影響下における赤十字血液センターの取り組みに関する全国調査を企画・実施した。

B. 研究方法

調査対象は、全国47都道府県の赤十字血液センター（N=47）とした。日本赤十字社血液事業本部より、本研究への協力依頼をメールにて周知いただき、オンライン・フォームを利用した自記式アンケート調査した。各血液センターにおいて、献血確保のための活動に従事する担当者を調査の対象者とした。

調査項目は、以下の6項目とした。

1. 過去4年間（2019-2022）の年間献総血者数
2. コロナ禍における献血推進活動
 - コロナ禍において（2020年以降）新たに始めた活動、強化した活動、中止または縮小した活動、特に効果的だったと思う活動上位3つ
3. コロナ禍における採血所の環境整備等
 - コロナ禍において（2020年以降）新たに始めた環境整備、強化した環境整備、中止または縮小した環境整備、特に効果的だったと思う環境整備上位3つ

4. 今後、献血確保のために計画している新たな取組み
5. コロナ禍での経験が、その後の献血確保策に与えた良い影響
6. その他ご意見

本調査は、2024年3月に実施した。

【倫理的配慮】

本研究は広島大学疫学倫理審査委員会の承認を得て実施している（E2022-0187）。

C. 研究結果

1. 回答状況

全国47都道府県の赤十字血液センターのうち、31都道府県の血液センターから回答を得た（回答率66%）

2. 過去4年間（2019-2022）の年間献総血者数の推移（表1）

新型コロナウイルス感染症パンデミックが始まった2020年度に、年間献血者総数の減少が認められたのは、31都道府県の血液センターのうち4センターのみだった（福島県：-1,110人、東京都：-18,056人、富山県：-467人、福井県：-1,163人）。一方、残りの27都道府県（87%）においては、献血者総数はむしろ増加していた。人口変化の影響を考慮するために、15-69歳人口千人当たりの献血者数（献血率）を年度別に比較した。その結果、29の赤十字血液センター（93.5%）で、2020年度の献血率は2019年度と同等以上であった。東京都では、2020年度は献血者数・率ともに2019年度の水準を下回ったが、翌2021年度にはいずれも2019年度を上回る値となった。2022年度の年間献血者総数をみると、13府県（42%）において2019年度の水準を下回っていたが、そのうち12府県では献血率はむしろ増加しており、2022年度にみられた献血者総数の減少は人口減少に伴うものと考えられた。

3. コロナ禍における献血推進活動（図1、表2）

コロナ禍において（2020年以降）新たに始めた活動として最も多かったのは「SNSを含むインターネットでの呼びかけ（55%）」、次いで「献血推進

のための独自のキャンペーン実施（42%）」、「企業を対象とした取組み（35%）」であった。

コロナ禍において強化した活動として最も多かったのは「企業を対象とした取組み（55%）」、次いで「テレビ・ラジオでの呼びかけ（39%）」、「献血WEB会員サービス ラブラッド会員に対する個別勧奨（35%）」であった。

コロナ禍において中止または縮小した活動として最も多かったのは「幼少期の子どもとその親と一緒に献血に触れ合える体験学習の実施（55%）」、次いで「街頭での呼びかけ（39%）」、「学生献血推進ボランティア組織との連携（39%）」であった。

各センターにおける具体的な内容については表2、表3に示す。

それらの活動のなかで、もっとも効果的だったと思う活動については、「テレビ・ラジオでの呼びかけ」が最も多く29%、次いで「献血推進のための独自のキャンペーンの実施（26%）」、「企業等を対象とした取組み（13%）」であった（図2、表4）。

4. コロナ禍における採血所の環境整備等（図3、表5）

コロナ禍において（2020年以降）新たに始めた環境整備として最も多かったのは「採血所での検温・手指消毒（90%）」、次いで「採血所に空気清浄機設置（71%）」であった。

コロナ禍において強化した環境整備として最も多かったのは「WEB予約システムの推進・普及（68%）」、次いで「事前予約の推奨（58%）」、「商業施設等への献血バス配車（45%）」であった。

コロナ禍において中止または縮小した環境整備に関しては「特になし」という回答が最も多く35%であった。次いで「大学・専門学校への献血バス配車（32%）」、「企業等への献血バス配車（29%）」であった。

各センターにおける具体的な内容については表5、表6に示す。

もっとも効果的だったと思う環境整備については、「採血所の収容人数を制限（23%）」であり、次いで「商業施設等への献血バス配車（19%）」

「事前予約の推奨（19%）」であった（図4、表7）。

5. 今後、献血確保のために計画している新たな取組み（表8）

今後、献血確保のために計画している新たな取組みに関する回答結果を表8に示す。約半数（7/15）は高校生など若年層を対象とした企画であった。

6. コロナ禍での経験が、その後の献血確保策に与えた良い影響（表9）

コロナ禍での経験が、その後の献血確保策に与えた良い影響に関する回答結果を表9に示す。「事前予約制の普及・定着」を指摘する意見が特に多かった（15/20）。

7. その他ご意見（表10）

「コロナ禍において、献血の意識が高まったのか、実績は少し上がったが、また献血協力者が減ってきている。継続的に献血に協力してもらえるよう努めていく必要があると感じた。」など、コロナ後の課題を指摘する意見などがあつた。

8. コロナ禍における献血推進の取組みについて、主成分分析を用いた解析を試みた結果、「事前予約の普及・定着」「独自キャンペーン」が、コロナ禍後の献血者数（人口千人対）の増加に関連性の強い因子であった（図5）。

表 1. 回答のあった血液センター(N=31)の人口、年間総献血者数、人口千人あたりの献血者総数の推移 (2019-2022)

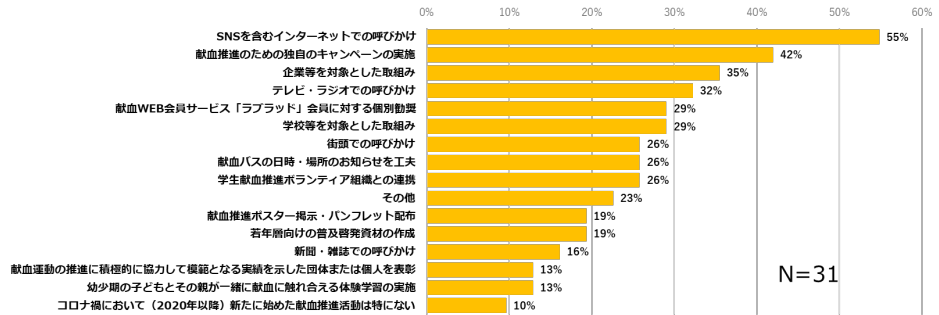
	都道府県別人口(15-69歳), 千人				年間総献血者数				2019年度(コロナ禍前)の年間総献血者数との差			人口(15-69歳)千人当たりの総献血者数				人口(15-69歳)千人当たり献血者数、2019年度(コロナ禍前)との差		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2019年	2020年	2021年	2022年	2020年度	2021年度	2022年度	2019年	2020年	2021年	2022年	2020年度	2021年度	2022年度
北海道赤十字血液センター	3,437	3,389	3,331	3,282	252,062	259,058	259,707	253,950	6,996	7,645	1,888	73	76	78	77	3	5	4
青森県赤十字血液センター	806	791	774	758	46,826	49,092	48,032	47,159	2,266	1,206	333	58	62	62	62	4	4	4
岩手県赤十字血液センター	785	768	753	736	43,396	44,524	44,481	43,104	1,128	1,085	-292	55	58	59	59	3	4	3
宮城県赤十字血液センター	1,557	1,550	1,529	1,515	91,356	93,215	93,547	91,954	1,859	2,191	598	59	60	61	61	1	3	2
秋田県赤十字血液センター	602	592	576	563	38,426	42,013	40,140	38,401	3,587	1,714	-25	64	71	70	68	7	6	4
福島県赤十字血液センター	1,207	1,192	1,169	1,146	77,345	76,235	76,257	75,823	-1,110	-1,088	-1,522	64	64	65	66	0	1	2
茨城県赤十字血液センター	1,896	1,892	1,867	1,848	100,502	105,476	105,603	104,296	4,974	5,101	3,794	53	56	57	56	3	4	3
群馬県赤十字血液センター	1,273	1,265	1,248	1,233	89,369	92,299	93,199	90,760	2,930	3,830	1,391	70	73	75	74	3	4	3
埼玉県赤十字血液センター	4,993	4,945	4,915	4,897	229,804	240,447	240,942	239,357	10,643	11,138	9,553	46	49	49	49	3	3	3
千葉県赤十字血液センター	4,201	4,207	4,175	4,153	220,867	223,838	232,687	229,579	2,971	11,820	8,712	53	53	56	55	1	3	3
東京都赤十字血液センター	9,896	9,982	9,924	9,954	562,578	544,522	569,655	566,242	-18,056	7,077	3,664	57	55	57	57	-2	1	0
富山県赤十字血液センター	664	654	643	633	37,935	37,468	37,400	36,231	-467	-535	-1,704	57	57	58	57	0	1	0
石川県赤十字血液センター	741	732	724	716	45,152	45,186	44,561	44,620	34	-591	-532	61	62	62	62	1	1	1
福井県赤十字血液センター	492	491	482	475	30,275	29,112	29,353	28,484	-1,163	-922	-1,791	62	59	61	60	-2	-1	-2
長野県赤十字血液センター	1,294	1,288	1,270	1,259	75,016	79,304	78,212	74,535	4,288	3,196	-481	58	62	62	59	4	4	1
岐阜県赤十字血液センター	1,284	1,269	1,248	1,234	67,754	68,740	69,058	66,656	986	1,304	-1,098	53	54	55	54	1	3	1
愛知県赤十字血液センター	5,120	5,080	5,037	5,018	286,118	295,251	292,732	298,290	9,133	6,614	12,172	56	58	58	59	2	2	4
滋賀県赤十字血液センター	944	939	931	926	48,833	53,175	51,516	53,015	4,342	2,683	4,182	52	57	55	57	5	4	6
大阪府赤十字血液センター	5,888	5,878	5,829	5,807	390,758	396,847	397,018	386,871	6,089	6,260	-3,887	66	68	68	67	1	2	0
兵庫県赤十字血液センター	3,577	3,553	3,508	3,475	205,306	216,414	217,724	214,926	11,108	12,418	9,620	57	61	62	62	4	5	4
奈良県赤十字血液センター	853	843	829	818	47,714	49,815	49,353	49,008	2,101	1,639	1,294	56	59	60	60	3	4	4
和歌山県赤十字血液センター	585	574	565	557	43,399	45,062	43,511	42,401	1,663	112	-998	74	79	77	76	4	3	2
鳥取県赤十字血液センター	352	348	342	337	23,013	23,495	21,899	21,869	482	-1,114	-1,144	65	68	64	65	2	-1	0
山口県赤十字血液センター	844	825	809	794	50,310	52,913	51,845	51,415	2,603	1,535	1,105	60	64	64	65	5	4	5
徳島県赤十字血液センター	461	453	444	434	27,622	28,529	28,565	27,726	907	943	104	60	63	64	64	3	4	4
愛媛県赤十字血液センター	845	838	822	806	51,038	54,019	52,791	53,641	2,981	1,753	2,603	60	64	64	67	4	4	6
高知県赤十字血液センター	431	425	415	409	26,529	29,339	28,983	28,695	2,810	2,454	2,166	62	69	70	70	7	8	9
佐賀県赤十字血液センター	523	516	507	501	31,188	35,149	35,027	33,786	3,961	3,839	2,598	60	68	69	67	8	9	8
熊本県赤十字血液センター	1,106	1,093	1,080	1,065	74,399	77,069	75,062	72,749	2,670	663	-1,650	67	71	70	68	3	2	1
大分県赤十字血液センター	713	699	687	680	48,391	49,659	48,449	46,659	1,268	58	-1,732	68	71	71	69	3	3	1
沖縄県赤十字血液センター	982	989	981	977	53,665	54,865	54,781	54,370	1,200	1,116	705	55	55	56	56	1	1	1

ポストコロナ時代における赤十字血液センターによる効果的な献血確保策の先進事例に関する全国調査2023
 コロナ禍における献血推進活動

全国47血液センターのうち回答のあった31血液センター

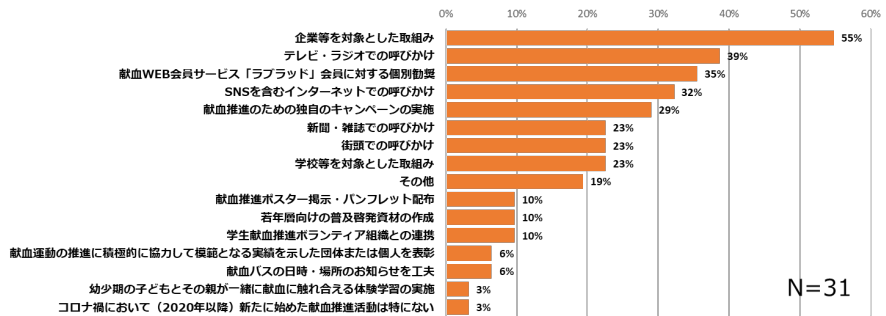
① コロナ禍において（2020年以降）**新たに始めた**献血推進活動を以下の中から選択してください（複数回答可）

1. SNSを含むインターネットでの呼びかけ(55%)
2. 献血推進のための独自のキャンペーンの実施(42%)
3. 企業等を対象とした取組み(35%)



② コロナ禍において（2020年以降）**強化した**献血推進活動を以下の中から選択してください（複数回答可）

1. 企業等を対象とした取組み(55%)
2. テレビ・ラジオでの呼びかけ(39%)
3. 献血WEB会員サービス「ラブラッド」会員に対する個別勧奨(35%)



③ コロナ禍において（2020年以降）**中止または縮小した**献血推進活動を以下の中から選択してください（複数回答可）

1. 幼少期の子どもとその親と一緒に献血に触れ合える体験学習の実施(55%)
2. 街頭での呼びかけ(39%)
3. 学生献血推進ボランティア組織との連携(39%)

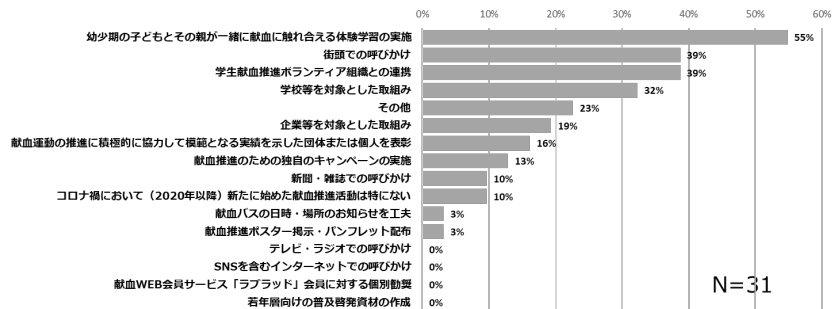


図 1. コロナ禍における献血推進活動

表 2. コロナ禍における献血推進活動（具体的な記載）

コロナ禍における献血推進活動についてお答えください	
①献血推進のための独自のキャンペーン	
コロナ禍において（2020年以降）新たに始めた	
献血予約いただけた方に、記念品を進呈する。	兵庫県赤十字血液センター
平日午後予約献血キャンペーン	佐賀県赤十字血液センター
予約記念品を提供するキャンペーンを実施	富山県赤十字血液センター
予約キャンペーン	滋賀県赤十字血液センター
ワンモアカードの配布。配布したカードを持参してくれたら記念品を渡すキャンペーン	長野県赤十字血液センター
血液センターでの予約限定バス	徳島県赤十字血液センター
移動採血協力者対象の献血ルーム誘導キャンペーン	茨城県赤十字血液センター
献血終了した方へ次回献血予約の推進、ライオンズクラブのゾーンごとの合同アクティビティ、献血ルーム限定・学生献血キャンペーン	千葉県赤十字血液センター
2021年10月鉄道博物館とコラボ記念品を作成し「完全予約」献血を実施した。今年度新たにワイルドナイツとコラボし選手2名を招いた「ワイルドナイツウィーク」、映画とコラボした「翔んで献血キャンペーン」、インスタライブで若年層確保に挑んだ「献血セミナー」など実施した。	埼玉県赤十字血液センター
トミカキャンペーンを開始。年間2回の400mL献血及び予約献血でトミカプレゼント。	宮城県赤十字血液センター
1.「若年層献血者確保」蒙古タンメンやレッドブルの配布。2.「移動から固定の誘導」学域等で時間なしや低比重の献血者を献血ルームへ誘導する。3.「リピートキャンペーン」400mLと成分を合わせて3回献血した方へ記念品の配布。4.「400mL予約強化」次回の予約を推進した。	東京都赤十字血液センター
毎月独自キャンペーンを実施（次回献血予約キャンペーン、お菓子つかみどりキャンペーン、ガチャ抽選会、若年層献血キャンペーン等）。	愛知県赤十字血液センター
時季に合わせたキャンペーンで記念品プレゼント（継続中）、初回献血で次回献血でトミカがもらえる引換券配布（2回実施）	高知県赤十字血液センター
コロナ禍において（2020年以降）強化した	
手塚治虫記念館、神戸市交通局、コベルコスティーラーズ、阪神タイガース、西宮ストークス（現神戸ストークス）、ドラゴンゲート、KRDSなど様々な団体とコラボしての独自キャンペーン実施	兵庫県赤十字血液センター
平日午後予約献血キャンペーン	佐賀県赤十字血液センター
クリスマス献血キャンペーンに2019年ぶりに選手を呼び行った。	埼玉県赤十字血液センター
トミカキャンペーンを開催。	宮城県赤十字血液センター
採血状況に応じ随時キャンペーンを実施	群馬県赤十字血液センター
各高校・大学の献血キャンペーン（LCとともに）	福井県赤十字血液センター
商業施設等の街頭会場に特化した予約キャンペーン等を強化	奈良県赤十字血液センター
毎月独自キャンペーンを実施（次回献血予約キャンペーン、お菓子つかみどりキャンペーン、ガチャ抽選会、若年層献血キャンペーン等）。	愛知県赤十字血液センター
常時予約キャンペーンで追加記念品をプレゼントしている。	高知県赤十字血液センター
コロナ禍において（2020年以降）中止または縮小した	
・ハンドマッサージ（固定施設） ・ネイルアート（固定施設） ・タロットカード占い（固定施設）	和歌山県赤十字血液センター
スプリングキャンペーン（コロナ流行理由）	福井県赤十字血液センター
7月愛の助け合い運動キャンペーン	福島県赤十字血液センター

コロナ禍における献血推進活動についてお答えください

②献血運動の推進に積極的に協力して模範となる実績を示した団体または個人を表彰

コロナ禍において（2020年以降）強化した	
クリスマス献血キャンペーンに2019年ぶりに選手を呼び行った。	埼玉県赤十字血液センター
各高校・大学の献血キャンペーン（LCとともに）	福井県赤十字血液センター
コロナ禍において（2020年以降）中止または縮小した	
兵庫県と合同の献血功労感謝のつどいをコロナ禍では実施せず、今年度より再開。	兵庫県赤十字血液センター
献血感謝の集い中止	岐阜県赤十字血液センター
愛媛県と合同で県庁にて表彰式を実施していた。その際に、愛媛センターから所長感謝状を併せて贈呈していたが現在は県と合同実施していない。	愛媛県赤十字血液センター
愛知県献血運動推進大会の中止（R2～R3年度）。	愛知県赤十字血液センター

③テレビ・ラジオでの呼びかけ

コロナ禍において（2020年以降）新たに始めた	
プレスリリースで窮状を訴えた	沖縄県赤十字血液センター
FMラジオでのCM	滋賀県赤十字血液センター
県の協力し、テレビCMを作成してくれた	長野県赤十字血液センター
FM愛媛に放送依頼し、ラジオにより献血PR実施。	愛媛県赤十字血液センター
民放1局の公共プロジェクト（15秒CMでの献血呼びかけ）2020年4月～2021年3月の期間中、2回以上/日 放送協力	石川県赤十字血液センター
映画『翔んで埼玉～琵琶湖より愛をこめて～』公開に合わせ、予約した上で献血にご協力いただいた方にコラボキーホルダーをプレゼントする「翔んで献血キャンペーン」や友寄連さんのインスタライブで実施した献血セミナーをNHK全国放送「ニュースゆう5時」で取り上げられた。	埼玉県赤十字血液センター
ラジオのマンスリー企画	大阪府赤十字血液センター
地元ラジオ局でのパーソナリティによる献血呼びかけ	宮城県赤十字血液センター
報道機関への情報提供、取材要請。	愛知県赤十字血液センター
コロナ禍において（2020年以降）強化した	
若年層への献血啓発の一環として、はたちの献血時に、ラジオCMを高校生に作成してもらうコンテスト開催。	兵庫県赤十字血液センター
Q4と同じ	沖縄県赤十字血液センター
ラジオCM、番組出演	滋賀県赤十字血液センター
血液センターとしての新型コロナウイルス感染症に対する取り組みの周知及び、献血は不要不急の外出には当たらないことを周知し県民に献血協力を呼び掛けた	岩手県赤十字血液センター
テレビ取材	岐阜県赤十字血液センター
地元ラジオ局へのスポット出演	茨城県赤十字血液センター
必要性の周知	熊本県赤十字血液センター
ニュースリリース	大阪府赤十字血液センター
パーソナリティによる県民への献血呼びかけ。	宮城県赤十字血液センター
献血バスの配車計画が不安定な状況と献血会場における安全対策（来場者への検温及びマスクの撤退・職員の健康チェック・献血バス車内の空調設備・献血者動線（3密回避）等）を中心に、献血は「不要不急の外出ではない」ことをPR	和歌山県赤十字血液センター
コロナ禍における献血の動向についてニュースで取り上げていただいた	奈良県赤十字血液センター
報道機関への情報提供、取材要請。	愛知県赤十字血液センター

コロナ禍における献血推進活動についてお答えください

④新聞・雑誌での呼びかけ

コロナ禍において（2020年以降）新たに始めた	
プレスリリースで窮状を訴えた	沖縄県赤十字血液センター
新聞や無料媒体への掲載。献血は不要不急の外出にはあたりません。と明記。	長野県赤十字血液センター
コロナ禍において、献血バスの配車が厳しかったため新聞広告にて配車先を募集した。	愛媛県赤十字血液センター
河北新報社へ所長が訪問し県民への献血呼びかけを紙面で行う。	宮城県赤十字血液センター
報道機関への情報提供、取材要請。	愛知県赤十字血液センター
コロナ禍において（2020年以降）強化した	
手塚治虫記念館、神戸市交通局、コベルコスティーラーズ、阪神タイガース、西宮ストークス（現神戸ストークス）、ドラゴンゲート、KRD8など様々な団体とコラボしての独自キャンペーン実施	兵庫県赤十字血液センター
報道機関に取材依頼を行い、企業献血等、感染拡大を懸念して受入拒否やクラスター発生により中止する献血回会場もあることで献血協力者確保に苦慮していることを記事にさせていただき県民に協力を呼び掛けた。	岩手県赤十字血液センター
新聞取材	岐阜県赤十字血液センター
必要性の周知	熊本県赤十字血液センター
コロナ禍での血液確保状況や献血受け入れ団体状況などを掲載	群馬県赤十字血液センター
・日本新聞販売協会近畿地区本部和歌山ブロックの協力により、1ヶ月の献血会場を記載したチラシを新聞折込にて県内一部地域（100,000世帯）へ無償配付 ・リビング和歌山の協力により、主に予約献血（予約方法や記念品プレゼント企画、配車日程、コロナ禍における献血状況など）を中心とした特集を掲載（無償）し、県内一部地域（154,500世帯）へ配付	和歌山県赤十字血液センター
コロナ禍における献血の動向について記事で取り上げていただいた	奈良県赤十字血液センター
コロナ禍において（2020年以降）中止または縮小した	
地元の広報雑誌への掲載が減少した。	高知県赤十字血液センター
新聞社訪問の中止	福島県赤十字血液センター

コロナ禍における献血推進活動についてお答えください		
⑤SNSを含むインターネットでの呼びかけ		
コロナ禍において（2020年以降）新たに始めた		
施設ごとにXのアカウントを作成し、施設ごとで投稿		兵庫県赤十字血液センター
公式ツイッターを開設		沖縄県赤十字血液センター
X(旧Twitter)、Instagram		佐賀県赤十字血液センター
ホームページへ、献血は不要不急の外出にはあたらない旨を呼びかけ		長野県赤十字血液センター
これまで愛媛センターとしてSNS活用は実施していなかったが、Twitter・インスタグラムを開設し定期的なPRを実施。		愛媛県赤十字血液センター
Instagramアカウント開設		徳島県赤十字血液センター
民放1局の公式YouTubeチャンネルにおける公共プロジェクト（献血呼びかけの動画配信）		石川県赤十字血液センター
LINEアカウントの開設		茨城県赤十字血液センター
公式SNS・HP・YouTubeで積極的に発信した。特にInstagram・Xにおいては、キャンペーンで後日抽選で選手のサイン入り記念品が当たる抽選会を動画で公開したり、献血セミナーをインスタライブで発信したり、リール動画で働く職員が具体的にどんな志をもっているかを発信したりしてより献血について身近に感じていただけるよう呼び掛けに努めた。		埼玉県赤十字血液センター
オンラインでの献血おもしろゼミナール開催 旧Twitter大阪府と連携し副知事からの発信 影響力のある方からの発信		大阪府赤十字血液センター
インフルエンサーを献血推進ガールに起用しSNSを活用した呼びかけ。		宮城県赤十字血液センター
「ありがとうの声」を発信し、献血者集客に努める。		東京都赤十字血液センター
自社ホームページにてコロナ禍における「献血協力団体・企業」の募集記事を掲載		和歌山県赤十字血液センター
ツイッターを開設し会場案内		福井県赤十字血液センター
X（旧Twitter）の開設		奈良県赤十字血液センター
X、facebookの積極的利用。		愛知県赤十字血液センター
インスタグラムにおいて、献血啓発広告を実施		山口県赤十字血液センター
コロナ禍において（2020年以降）強化した		
X(旧Twitter)、Instagram		佐賀県赤十字血液センター
投稿回数を増やした		滋賀県赤十字血液センター
3 番の回答に同じ。		岩手県赤十字血液センター
動画での呼びかけ		青森県赤十字血液センター
Xアカウントへ投稿		茨城県赤十字血液センター
自治体や献血会場となる施設のSNSを活用し、献血の周知を実施した。		埼玉県赤十字血液センター
献血推進ガールの起用。		宮城県赤十字血液センター
Twitter（現X）フォローキャンペーンを実施		奈良県赤十字血液センター
「献血は不要不急の用事ではない」ことを強調し、コロナ禍での協力団体の記事をホームページへ掲載した。X、facebookの積極的利用		愛知県赤十字血液センター

コロナ禍における献血推進活動についてお答えください

⑥街頭での呼びかけ

コロナ禍において（2020年以降）新たに始めた	
新規団体の確保（青年会議所、ロータリークラブ等）	富山県赤十字血液センター
計画通りの採血が難しい状況が続いたために、移動班に1名増員して呼びかけ強化を実施。	愛媛県赤十字血液センター
新規協力団体の獲得 青年会議所 郵便局長会	秋田県赤十字血液センター
常に行っていた	東京都赤十字血液センター
コロナ禍においても献血は不要不急に当たらないことを、来客者等に呼びかけ	和歌山県赤十字血液センター
受付時間中、絶え間なく呼びかけを実施した。	愛知県赤十字血液センター
街頭ビジョンへの放映（半年間×2回 現在無し）、アーケード街に吊り下げ式横断幕（現在も実施中）	高知県赤十字血液センター
コロナ禍において（2020年以降）強化した	
他課職員による呼びかけ支援	富山県赤十字血液センター
ショッピングセンターや駅での献血時のさらなる広報強化として可能な限り人員を配置した	千葉県赤十字血液センター
コロナ禍用の手持ち看板を作製し、啓発職員を動員して駅前にて通勤時や帰宅時に合わせた啓発 ・献血バスの該当配車時には、啓発職員を動員してスーパー出入口にて啓発活動（呼掛けのみ・ポケットティッシュの配付は無し）	和歌山県赤十字血液センター
予約の少ない時間帯の呼びかけを強化	奈良県赤十字血液センター
受付時間中、絶え間なく呼びかけを実施した。	愛知県赤十字血液センター
アーケード街への吊り下げ横断幕の設置（可能な範囲で継続中）	高知県赤十字血液センター
コロナ禍において（2020年以降）中止または縮小した	
新生活様式に沿って、大声、チラシの配布は控えている	沖縄県赤十字血液センター
チラシ、ポケットティッシュ等の手渡し中止	佐賀県赤十字血液センター
ボランティアの呼びかけ	滋賀県赤十字血液センター
7月「愛の血液助け合い運動」中止	岐阜県赤十字血液センター
先方より中止依頼のため	長野県赤十字血液センター
広報活動の声出し縮小や禁止、フェイスマスク着用の徹底がされた。	埼玉県赤十字血液センター
呼びかけの自粛	熊本県赤十字血液センター
声を出しての広報・ティッシュ配りの中止	群馬県赤十字血液センター
献血協力団体、赤十字奉仕団及び個人ボランティアによる啓発物品（ポケットティッシュ等）の配付を中止し、手持ち看板のみの啓発とした	和歌山県赤十字血液センター
赤十字奉仕団の中止、ティッシュ配布の中止	福島県赤十字血液センター

コロナ禍における献血推進活動についてお答えください		
⑦献血WEB会員サービス「ラブラッド」会員に対する個別勧奨		
コロナ禍において（2020年以降）新たに始めた		
月末の一斉送信		兵庫県赤十字血液センター
メール、LINEでの依頼要請等		佐賀県赤十字血液センター
入会記念品		富山県赤十字血液センター
コロナにおける献血状況について		秋田県赤十字血液センター
献血事前予約の周知メール配信		千葉県赤十字血液センター
新規登録強化、予約勧奨、定期依頼、献血期間が開いている方へ情報発信と啓発		東京都赤十字血液センター
ラブラッド会員へ電話、メール及びLINEにて、コロナ禍においても献血は不要不急では無いこと、また「3密」回避のため献血予約及び事前問診を推奨していることをPR（月1回程度）		和歌山県赤十字血液センター
キャンペーンのお知らせを定期的に配信		奈良県赤十字血液センター
40ポイント記念品を導入（現在無し）		高知県赤十字血液センター
コロナ禍において（2020年以降）強化した		
メール、LINEでの依頼要請等		佐賀県赤十字血液センター
3番回答に同じ。		岩手県赤十字血液センター
予約推進		徳島県赤十字血液センター
定期的の献血協力の配信		秋田県赤十字血液センター
献血協力依頼時、コロナ禍においても献血は必要不可欠である旨周知		石川県赤十字血液センター
献血は不要不急の外出にあたらぬ旨を伝えつつ、密集密接を避けるための事前予約献血の推進を実施した。		千葉県赤十字血液センター
必要性の周知		熊本県赤十字血液センター
・ラブラッド全会員あてメールの配信（月1回程度） ・献血協力のお願いかかるホームページ掲載（近畿ブロック統一）に合わせた採血状況（型別協力含む）のメール配信（適宜）		和歌山県赤十字血液センター
会員への電話依頼を強化		奈良県赤十字血液センター
メール・はかぎによる献血依頼要請。		愛知県赤十字血液センター
予約優先で献血受入		福島県赤十字血液センター

コロナ禍における献血推進活動についてお答えください

⑨企業等を対象とした取組み

コロナ禍において（2020年以降）新たに始めた

ライオンズクラブ等の団体と協力し、献血会場の確保に努めた。	富山県赤十字血液センター
教育委員会、建設業協会の団体協力	岐阜県赤十字血液センター
お願いできる企業へは回数を増やしての実施協力	長野県赤十字血液センター
コロナ禍における献血状況説明	秋田県赤十字血液センター
献血協力ができない企業へ、近隣の献血ルームでの協力を促すチラシを配付	千葉県赤十字血液センター
AmazonJapanで献血啓発を実施。厚生労働省や血液事業本部からの通知に基に、継続的な献血協力を依頼した。	埼玉県赤十字血液センター
固定施設の近隣企業にポスターの掲示依頼、固定施設内に献血協力団体募集ポスターの掲示	東京都赤十字血液センター
コロナ禍にて献血協力辞退の申し出があった企業等に対し、近隣の献血会場への協力を依頼する案内チラシを配付（許可を得た企業等のみ）	和歌山県赤十字血液センター
3密防止、近隣会場への献血誘導	福井県赤十字血液センター
感染対策で配車できない事業所に固定施設、街頭等への誘導	奈良県赤十字血液センター
オンラインによる献血セミナーの実施、近隣企業に大須独自のチラシ掲示依頼をした。企業へのパンフレット配布	愛知県赤十字血液センター

コロナ禍において（2020年以降）強化した

新規企業へのアプローチ	兵庫県赤十字血液センター
企業でのWEB予約導入依頼	岐阜県赤十字血液センター
当日献血において、推進担当者から企業担当者へ必要人数確保までの声掛け頻度を増やした。	愛媛県赤十字血液センター
予約推進	徳島県赤十字血液センター
献血協力者名簿及び予約	秋田県赤十字血液センター
献血未実施事業所への協力依頼文書発出	茨城県赤十字血液センター
蜜を回避するための予約献血をさらに強化した。	埼玉県赤十字血液センター
単日実施を複数日実施、事前予約推進、密を避け参加出来る工夫	大阪府赤十字血液センター
事前希望・時間割の作成（蜜を避けるため）	群馬県赤十字血液センター
十分な感染対策についてご理解いただいた企業においては、実施日当日の個別呼出しや事前名簿の作成に繋がった	和歌山県赤十字血液センター
予約・名簿・時間割	福井県赤十字血液センター
時間帯別で来場できるよう、予約を推奨	奈良県赤十字血液センター
近隣施設へポスター掲示、動員を依頼をした。	愛知県赤十字血液センター
御礼の記念品を1個から2個に増やした。	高知県赤十字血液センター
事前協力者名簿の作成	福島県赤十字血液センター
新たな協力企業開拓や近年未実施であった企業へ再開依頼	山口県赤十字血液センター

コロナ禍において（2020年以降）中止または縮小した

配車辞退	滋賀県赤十字血液センター
二次産業 大手工場などの中止	秋田県赤十字血液センター
献血バス受入の一部中止	茨城県赤十字血液センター
屋内の献血会場が減少し、屋外が増加した。	埼玉県赤十字血液センター
訪問回数の減（電話、メールでのやり取りに切り替え）	熊本県赤十字血液センター
施設見学の受入。	愛知県赤十字血液センター

コロナ禍における献血推進活動についてお答えください

⑩学校等を対象とした取り組み

コロナ禍において（2020年以降）新たに始めた

非対面式での献血セミナー実施	佐賀県赤十字血液センター
NO.9と同じ	富山県赤十字血液センター
学内献血事前相談会の開催	徳島県赤十字血液センター
献血実施ができない大学に対して、近隣の献血ルームでの協力を促すチラシ配付	千葉県赤十字血液センター
さいたま市中学生職場体験事業「未来（みら）くるワーク体験」を実施	埼玉県赤十字血液センター
3密防止、近隣会場への献血誘導	福井県赤十字血液センター
大学において配車前に事前予約会の実施	奈良県赤十字血液センター
オンラインによる献血セミナーの実施、大学・専門学校にポスター掲示を依頼し、ポスターを写真で取り組みと記念品プレゼント。	愛知県赤十字血液センター
ボランティア証明書の発行	福島県赤十字血液センター

コロナ禍において（2020年以降）強化した

教育委員会、校長会、ライオンズ研修会、行政担当者会議においてのセミナー依頼。	兵庫県赤十字血液センター
事前承諾書が必要な学校においては、承諾書の提出状況の確認回数を増やして計画達成までアプローチ実施。	愛媛県赤十字血液センター
献血未実施校対象のキャンペーン	茨城県赤十字血液センター
学生団体共通SNSやWebサイトにて啓発動画や献血ルーム案内など配慮した。事前登録会の実施	大阪府赤十字血液センター
高校及び大学クラブへ協力を依頼し、近隣会場への誘導	和歌山県赤十字血液センター
コロナ禍で中止している学校に献血依頼	福井県赤十字血液センター
時間帯別で来場できるように、予約を推奨	奈良県赤十字血液センター

コロナ禍において（2020年以降）中止または縮小した

セミナー、学内献血の縮小	鳥取県赤十字血液センター
配車辞退	滋賀県赤十字血液センター
献血セミナーの中止	大分県赤十字血液センター
献血セミナーが一部の学校で中止	青森県赤十字血液センター
けんけつちゃん着ぐるみを着ての献血呼びかけ。	愛媛県赤十字血液センター
高校献血の縮小	秋田県赤十字血液センター
献血バス受入の一部中止	茨城県赤十字血液センター
訪問回数の減	熊本県赤十字血液センター
セミナーの中止	群馬県赤十字血液センター
施設見学の受入及び参集による職場体験受入。	愛知県赤十字血液センター

コロナ禍における献血推進活動についてお答えください

①献血推進ポスター掲示・パンフレット配布

コロナ禍において（2020年以降）新たに始めた

愛媛県支部から協力団体へ献血PRポスター掲示を依頼。	愛媛県赤十字血液センター
コロナ禍における献血状況	秋田県赤十字血液センター
今年度新たに実施したキャンペーン（ワイルドナイツウィーク2023、REDS献血キャンペーンなど）の献血啓発ポスターを掲示	埼玉県赤十字血液センター
献血実施ポスターにコロナ関係の情報を記載	群馬県赤十字血液センター
感染対策の取り組みに特化した資料を協力団体に配付	奈良県赤十字血液センター
大学・専門学校に掲示依頼をした。近隣専門学校34校に訪問し、ポスター及びチラシを配布した。プロスポーツ団体とのコラボクリ	愛知県赤十字血液センター

コロナ禍において（2020年以降）強化した

兵庫県支部を通して、JRC部がある高校へのパンフレット配布	兵庫県赤十字血液センター
熊本市のコミュニティボードを活用	熊本県赤十字血液センター
大学・専門学校にポスター掲示を依頼し、ポスターを写真で取り組みと記念品プレゼント。固定施設における展示スペースの提供。	愛知県赤十字血液センター

②若年層向けの普及啓発資材の作成

コロナ禍において（2020年以降）新たに始めた

パンフレット作成	滋賀県赤十字血液センター
オンライン職場見学、V-tuber茨ひよりによる献血の紹介、30秒CM作成	茨城県赤十字血液センター
スポーツ団体とのコラボした記念品の作成	埼玉県赤十字血液センター
HP内に小学生向けの普及啓発としてキッズサイトを設置	東京都赤十字血液センター
献血セミナー時に「ラブブラッド」加入案内チラシを配付	奈良県赤十字血液センター
けんけつちゃんサンバイザー配布。	愛知県赤十字血液センター

コロナ禍において（2020年以降）強化した

学生ボランティアと協力して献血キャンペーン時に作成。	愛媛県赤十字血液センター
モバイルバッテリー（県作成）、県知事メッセージ入りチラシの作成	熊本県赤十字血液センター
大学・専門学校に掲示依頼をした。	愛知県赤十字血液センター

コロナ禍において（2020年以降）中止または縮小した

施設見学休止に伴い整備見合わせ。	愛知県赤十字血液センター
------------------	--------------

コロナ禍における献血推進活動についてお答えください

⑬学生献血推進ボランティア組織との連携

コロナ禍において（2020年以降）新たに始めた

通常のキャンペーン以外でも協力を依頼した。	富山県赤十字血液センター
学内献血事前相談会の開催	徳島県赤十字血液センター
ワイルドナイツウィーク2023やREDS献血キャンペーンキックオフイベントのスタッフとして連携	埼玉県赤十字血液センター
ショッピングモールにて呼びかけ活動。	宮城県赤十字血液センター
リモート形式の会議を実施	奈良県赤十字血液センター
学生献血連盟と連携し定期的に呼びかけ活動を行った。	愛知県赤十字血液センター

コロナ禍において（2020年以降）強化した

月に1度、定例会を開催して連携を強化。	愛媛県赤十字血液センター
石川県学生献血推進委員会のSNSによる献血呼びかけ協力	石川県赤十字血液センター
学生からのSNSでの情報配信を強化	奈良県赤十字血液センター

コロナ禍において（2020年以降）中止または縮小した

高校生や小学生向けのセミナーへの帯同が困難となった。	鳥取県赤十字血液センター
献血会場での呼び込みなどは禁止となったため、現地での活動を控えてもらった。	長野県赤十字血液センター
献血活動の縮小	秋田県赤十字血液センター
活動の一部休止	茨城県赤十字血液センター
対面での献血イベント等	埼玉県赤十字血液センター
イベントの縮小・中止	熊本県赤十字血液センター
活動中止	群馬県赤十字血液センター
献血キャンペーンを実施できない	福井県赤十字血液センター
移動採血における学生献血キャンペーンの中止（R1～R2年度）。	愛知県赤十字血液センター
以前より集まる機会が減り、ボランティアの人数も減少した。	高知県赤十字血液センター
赤十字奉仕団の中止、ティッシュ配布の中止	福島県赤十字血液センター
対面での役員会実施自粛	山口県赤十字血液センター

コロナ禍における献血推進活動についてお答えください

⑭幼少期の子どもとその親と一緒に献血に触れ合える体験学習の実施

コロナ禍において（2020年以降）新たに始めた	
通常対面での開催であったが、セミナー動画を作成し、動画配信サイトへ掲載した。	鳥取県赤十字血液センター
イベントで献血バスの展示	徳島県赤十字血液センター
1.丸の内キッズジャンボリーにて血液事業お仕事体験プログラム実施。 2.子ども霞が関見学デーにて模擬献血体験	東京都赤十字血液センター
オンラインによる「夏休み親子血液教室」開催。	愛知県赤十字血液センター
コロナ禍において（2020年以降）強化した	
夏季休暇に親子献血キャンペーンを実施。	愛媛県赤十字血液センター
コロナ禍において（2020年以降）中止または縮小した	
対面での開催を中止。または募集人数の縮小。	鳥取県赤十字血液センター
夏休みキッズ献血の中止	佐賀県赤十字血液センター
子ども向けイベントの中止	滋賀県赤十字血液センター
年に1度商業施設で行う体験型のイベント（こどもを対象とした）の中止	大分県赤十字血液センター
感染拡大の配慮から、血液センターを会場として実施していた親子の血液センター見学会を中止とした。	岩手県赤十字血液センター
夏休み親子見学会の中止	岐阜県赤十字血液センター
親子体験教室において、赤十字病院へ移動して実際の輸血様子を見学するというプログラムを設けていたが中止している。	愛媛県赤十字血液センター
夏休みの親子イベントを中止	徳島県赤十字血液センター
中止	秋田県赤十字血液センター
献血疑似体験イベントの中止。2024年からは再開の予定。	千葉県赤十字血液センター
自治体主催のイベント献血等の中止が相次いだ。	埼玉県赤十字血液センター
献血キッズサマースクール	宮城県赤十字血液センター
・夏休み献血ふれあい体験（近畿ブロック血液センターへの施設見学） ・赤十字ふれあいカーニバル（近隣住民を対象とした縁日及び献血イベント）	和歌山県赤十字血液センター
血液センターでの小学生・保護者を対象としたイベントの中止	奈良県赤十字血液センター
参集にて実施していた「夏休み親子血液教室」の開催中止（オンラインにて開催へ移行）。	愛知県赤十字血液センター
受入人数の縮小	福島県赤十字血液センター
小学生親子対象の「けんけつキッズスクール」の開催自粛	山口県赤十字血液センター

コロナ禍における献血推進活動についてお答えください		
⑮その他		
コロナ禍において（2020年以降）新たに始めた		
ショッピングモールへ稼働を追加し献血者の確保に努めた。		富山県赤十字血液センター
すべてのメール会員へ依頼		青森県赤十字血液センター
2021年 千葉県知事による定例会見での献血呼びかけ依頼		千葉県赤十字血液センター
埼玉県薬務課に対し各自治体の施設借用についてご配慮いただく通知を出していた。急遽（当日や前日）の中止に対しての差替団体事前準備を行った。		埼玉県赤十字血液センター
・200mL献血の受入れ対象を緩和（これまでの10代～20代に加え、30代も対象） ・封書依頼を実施（約20,000通） ・電話依頼を実施（ラブラッド会員へのメール、依頼はがき及び封書依頼した後、同リストを活用して献血者へ現状を説明しながら、献血会場へ誘導		和歌山県赤十字血液センター
バス内の人数を縮小するため、健診車を活用し、献血者及びスタッフの人数を分散した		奈良県赤十字血液センター
「コロナと共存する”今”も、献血は必要です。」をキャッチフレーズに、各種広報媒体に統一して使用		山口県赤十字血液センター
コロナ禍において（2020年以降）強化した		
3密防止のため予約を推進した。		大分県赤十字血液センター
ルーム周辺企業へルーム協力依頼		岐阜県赤十字血液センター
移動採血車の振替が相次ぎ、固定施設の強化を図った。		大阪府赤十字血液センター
和歌山県による行政関係者への献血協力強化（職員による積極的な協力や配車協力等）の文書発出（県→保健所→市町村）		和歌山県赤十字血液センター
コロナ禍において（2020年以降）中止または縮小した		
イベント関係の移動採血の中止		佐賀県赤十字血液センター
市町の献血推進協議会の中止		岐阜県赤十字血液センター
ルーム内の占いなどのボランティア活動を感染防止のため中止		埼玉県赤十字血液センター
全てにおいて縮小を余儀なくさせられた		東京都赤十字血液センター
県市町村の献血担当者会議、ライオンズクラブ等協力団体との会合等		奈良県赤十字血液センター
啓発資材の作成中止		福島県赤十字血液センター

表3 その他、独自の献血推進活動

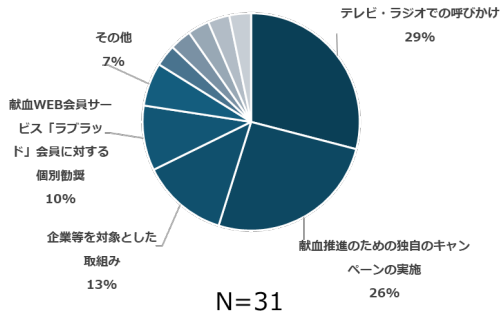
上記以外で独自の献血推進活動があれば教えてください					
血液センター	内容	始めた時期	良かった点	課題	効果評価
兵庫県赤十字血液センター	献血推進大使任命 (俳優 のんさん)	2022年5月23日から	任命式を県庁で実施。記者クラブほぼすべてのマスコミが集まって報道。のんさんを起用したポスター、ポストカード、動画制作を行ったおかげで、積極的に掲示いただけたり、行政の協力にも変化が生じた。例えば、広報広聴課をつながりを持てたことで、兵庫県のXにて献血のPRをしていただけるようになった。	契約や作成物など、通常の企業が頼むよりはかなりリーズナブルではあったが、代理店を挟まずに契約書作成や企画、任命式、報道対応などをほぼ一つの係で行ったため労力がかかりすぎた。献血者が増加したかの評価測定についてはかりにくかった。	どちらともいえない
埼玉県赤十字血液センター	自治体や献血会場となる施設のSNSを活用し、献血の周知を実施した。	2022年11月15日～	自治体や献血会場となる施設のSNSフォロワーが多く、幅広い方にコスト0で献血のお知らせができた。	先方基準で投稿するため、掲載依頼するタイミングが課題であった。	効果的だった
宮城県赤十字血液センター	ファミリーマート (コンビニ) 献血	2023年6月から	メディアに取り上げられた	実績の確保	効果的だった

ポストコロナ時代における赤十字血液センターによる効果的な献血確保策の先進事例に関する全国調査2023
 コロナ禍での献血確保に対して特に効果的であったと思われる活動

全国47血液センターのうち回答のあった31血液センター

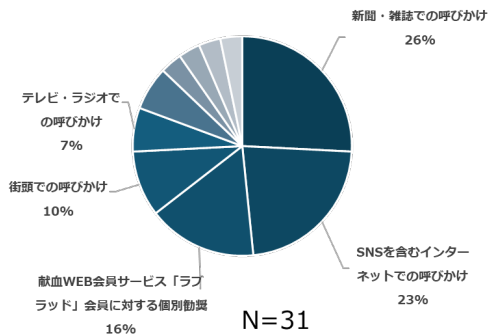
献血推進活動のうち、コロナ禍での献血確保に対して特に効果的であったと思われるもの上位3つを選んでください

第1位



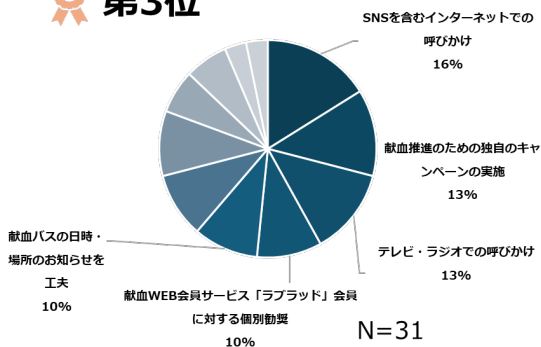
1. テレビ・ラジオでの呼びかけ(29%)
2. 献血推進のための独自のキャンペーンの実施(26%)
3. 企業等を対象とした取り組み(13%)

第2位



1. 新聞・雑誌の呼びかけ(26%)
2. SNSを含むインターネットでの呼びかけ(23%)
3. 献血WEB会員サービス「ラブラッド」会員に対する個別勧奨(16%)

第3位



1. 新聞・雑誌の呼びかけ(26%)
2. SNSを含むインターネットでの呼びかけ(23%)
3. 献血WEB会員サービス「ラブラッド」会員に対する個別勧奨(16%)

図 2. 献血推進活動のうち、コロナ禍での献血確保に対して特に効果的であったと思われるもの上位3つ

表 4. コロナ禍での献血確保に対して特に効果的であったと思われる献血推進活動、上位3つ（具体的記載）

献血推進活動のうち、コロナ禍での献血確保に対して特に効果的であったと思われる活動_第1位	
テレビ・ラジオでの呼びかけ(N=9; 29%)	
	コロナ禍で献血バスの行き先や、献血協力者の確保に苦慮している旨を発信
	コロナ禍の献血に関する取材
	パーソナリティによる献血呼びかけ
	献血者減少などのニュースが全国放送で流れたこと。
	県の協力で作成したテレビCM
	著名人によるSNSでの発信や新聞・雑誌も含め、各種メディアに取り上げていただけることで、街頭での呼掛けや電話依頼、ラブラッドメール配信、依頼ハガキ及び封書依頼等への相乗効果が期待できる
	報道
	民放1局の啓発プロジェクトにおける献血呼びかけ（2回以上/日、2020年4月～1年間）
献血推進のための独自のキャンペーンの実施（N=8; 26%）	
	スポーツ団体や話題のアニメ・映画とのコラボキャンペーン
	移動採血協力者対象の献血ルーム誘導
	献血終了した方への次回献血予約の推進
	採血状況に応じ随時キャンペーンを実施
	商業施設等の街頭会場に特化したキャンペーンを強化
	平日午後予約献血キャンペーン
企業等を対象とした取組み（N=4; 13%）	
	献血協力者名簿及び予約
	推進担当者から企業担当者へのアプローチ回数を増加させた。
	予約推進
献血WEB会員サービス「ラブラッド」会員に対する個別勧奨（N=3; 10%）	
	メール・はがきによる献血依頼要請。
	直接的な呼びかけ
その他（N=2; 6%）	
	街頭献血の稼働数を増やした。
	教育委員会、建設業協会の団体依頼
新聞・雑誌での呼びかけ（N=1; 3%）	
	取材による周知
SNSを含むインターネットでの呼びかけ（N=1; 3%）	
	水泳の池江選手によるツイート
献血バスの日時・場所のお知らせを工夫（N=1; 3%）	
献血推進ポスター掲示・パンフレット配布（N=1; 3%）	
	感染対策の取り組み、献血は不要不急の外出に当たらないことや、薬と服薬と献血ができるまでの期間を回覧チラシで作成し配布し協力を呼び掛けた。
若年層向けの普及啓発資材の作成（N=1; 3%）	
	モバイルバッテリーの配布

献血推進活動のうち、コロナ禍での献血確保に対して特に効果的であったと思われる活動_第2位

新聞・雑誌での呼びかけ(N=8; 26%)
コロナ禍で献血バスの行き先や、献血協力者の確保に苦慮している旨を発信
コロナ禍の献血に関する取材
プレスリリースの発出
河北新報社に所長訪問による県民への献血呼びかけ
献血は不要不急の外出ではありません
広く県民への周知
新聞取材
報道
SNSを含むインターネットでの呼びかけ(N=7; 23%)
各キャンペーンのお知らせ等を都度更新
公式SNS・HPを利用した周知
水泳の池江選手などからの呼びかけ。
投稿回数の増加
本件にかかる自社発信はないが、著名人によるSNSでの発信やテレビ・ラジオでの呼掛けも含め、各種メディアに取り上げていただけることで、街頭での呼掛けや電話依頼、ラブ ラッドメール配信、依頼ハガキ及び封書依頼等への相乗効果が期待できる
民放1局の啓発プロジェクトにおける献血呼びかけ（公式YouTubeチャンネルにおける動画 配信）
献血WEB会員サービス「ラブラッド」会員に対する個別勧奨(N=5; 16%)
キャンペーンの実施の情報提供・採血状況に応じたラブラッド会員への配信
メール、LINEでの依頼要請等
献血事前予約の周知メール配信
予約率が40%を超えているため
街頭での呼びかけ(N=3; 10%)
献血推進団体の関係者を動員。
テレビ・ラジオでの呼びかけ(N=2; 6%)
感染対策の取り組み、献血は不要不急の外出には当たらないことを周知した。
報道機関への情報提供、取材要請。
献血推進ポスター掲示・パンフレット配布(N=1;3%)
コロナ禍における献血状況
献血推進のための独自のキャンペーンの実施(N=1;3%)
血液センターでの予約限定バス
企業等を対象とした取組み(N=1;3%)
感染対策等を周知
学校等を対象とした取組み(N=1;3%)
事前登録予約会の実施
その他(N=1;3%)
企業献血における当日呼びかけ回数・内容強化を実施。

献血推進活動のうち、コロナ禍での献血確保に対して特に効果的であったと思われる活動_第3位

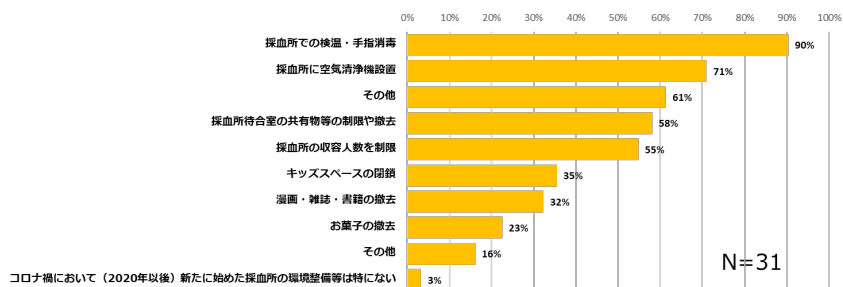
SNSを含むインターネットでの呼びかけ(N=5; 16%)
X(旧Twitter)、Instagram
コロナ禍で献血バスの行き先や、献血協力者の確保に苦慮している旨を発信
ネット記事
献血は不要不急の外出ではありません
献血推進のための独自のキャンペーンの実施(N=4;13)
トミカキャンペーンの開催。
団体とのコラボ（スノーバンク献血）
毎月独自キャンペーンを実施（次回献血予約キャンペーン、お菓子つかみどりキャンペーン、ガチャ抽選会、若年層献血キャンペーン等）。
テレビ・ラジオでの呼びかけ(N=4;13)
テレビ取材
プレスリリースを発売し夕方ニュースなどで献血について取り上げていただく。
広く県民への周知
献血WEB会員サービス「ラブラッド」会員に対する個別勧奨(N=3;10%)
各キャンペーンのお知らせを定期的に配信
予約推進
献血バスの日時・場所のお知らせを工夫(N=3;10%)
企業等を対象とした取組み(N=3;10%)
ライオンズクラブ等による献血会場の確保。
混雑による密を回避するためのタイムスケジュールの導入
その他(N=3;10%)
2021年の千葉県知事による定例会見での献血呼びかけ
すべてのメール会員へ依頼
記念品寄贈に基づいたスポットキャンペーン（県内和菓子専門店による寄贈）
新聞・雑誌での呼びかけ(N=2; 6%)
コロナ禍においての協力状況・協力企業の献血バス受け入れ状況
著名人によるSNSでの発信やテレビ・ラジオでの呼掛けも含め、各種メディアに取り上げていただけることで、街頭での呼掛けや電話依頼、ラブラッドメール配信、依頼ハガキ及び封書依頼等への相乗効果が期待できる
街頭での呼びかけ(N=2; 6%)
アーケード内で吊り下げ広告やビジョン放映（CM）が、献血ルームへの誘導に効いている。
チラシなどでコロナ対策を周知
若年層向けの普及啓発資材の作成(N=1;3%)
コラボ記念品の作成
学生献血推進ボランティア組織との連携(N=1;3%)
石川県学生献血推進委員会のSNSで献血呼びかけ強化

ポストコロナ時代における赤十字血液センターによる効果的な献血確保策の先進事例に関する全国調査2023
 コロナ禍における採血所の環境整備

全国47血液センターのうち回答のあった31血液センター

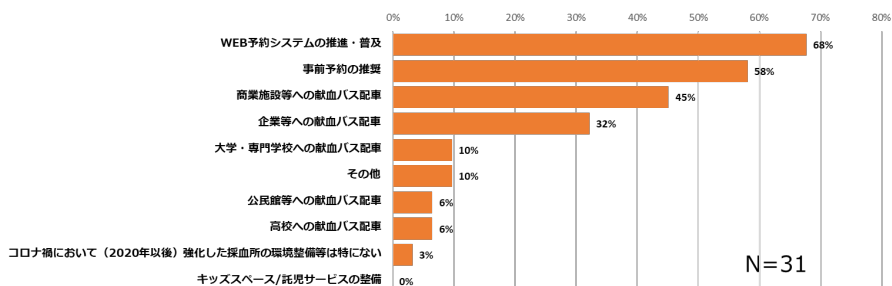
① コロナ禍において（2020年以降）**新たに始めた**採血所の環境整備等を以下の中から選択してください
 （複数回答可）

1. 採血所での検温・手指消毒(90%)
2. 採血所に空気清浄機設置(71%)
3. その他(61%)



② コロナ禍において（2020年以降）**強化した**採血所の環境整備等を以下の中から選択してください
 （複数回答可）

1. WEB予約システムの推進・普及(68%)
2. 事前予約の推奨(58%)
3. 商業施設等への献血バス配車(45%)



③ コロナ禍において（2020年以降）**中止または縮小した**採血所の環境整備等を以下の中から選択してください
 （複数回答可）

1. 中止または縮小した採血所の環境整備等は特になし(35%)
2. 大学・専門学校への献血バス配車(32%)
3. 企業等への献血バス配車(29%)

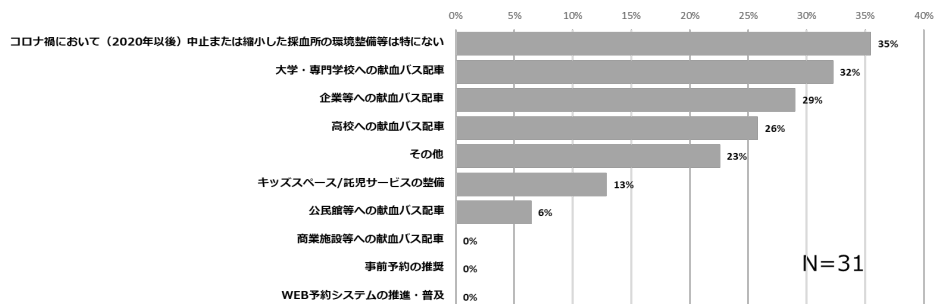


図3. コロナ禍における採血所の環境整備

表 5. コロナ禍における採血所の環境整備等（具体的な記載）

コロナ禍における採血所の環境整備等についてお答えください	
採血所の収容人数を制限	
コロナ禍において（2020年以降）新たに始めた	
献血バス内の待ち人数の制限	鳥取県赤十字血液センター
密を避けるように対応している。	沖縄県赤十字血液センター
土日祝日に会議室を待合室として開放、待合室イス、テーブルの削減(3密対策)	佐賀県赤十字血液センター
中型バス6人まで、大型バス7人まで	富山県赤十字血液センター
献血ルームでは、同伴者は入室不可に制限した。	大分県赤十字血液センター
献血をしない同伴者の入場制限	長野県赤十字血液センター
移動採血にて工場・介護施設・病院においては、バス内の人数を最低限にするような要望が多く。バス外での検査実施。使用ベッド数を少なくするなどして対応。	愛媛県赤十字血液センター
移動採血車内献血者4名	秋田県赤十字血液センター
中型 8名 大型特大 10名	茨城県赤十字血液センター
移動採血では中型車（4ベッド）⇒9名まで、大型車（5ベッド）⇒11名まで	千葉県赤十字血液センター
バス内での人数制限	大阪府赤十字血液センター
混雑時は受け入れ中止	東京都赤十字血液センター
献血バス外に健診医師を配置し、献血バスにおける献血者の収容人数を5名（事前1名、採血ベッド4名）とした	和歌山県赤十字血液センター
予約による時間帯別の来場を推奨したこと、バス会場では、健診車（マイクロバス）を活用し、スタッフと献血者の人数を分散した。	奈良県赤十字血液センター
献血バスにおいて、バス内に設けていた待ち椅子（1脚）を減らした。	高知県赤十字血液センター
バスに定員数を設けた	福島県赤十字血液センター
密を避けるため、待ち合い用の座席使用数の制限	山口県赤十字血液センター
採血所待合室の共有物等の制限や撤去	
コロナ禍において（2020年以降）新たに始めた	
椅子を間隔を空けて配置	岐阜県赤十字血液センター
キッズスペースの縮小、お菓子の撤去	茨城県赤十字血液センター
事務所、移動採血車内に飛沫防止パネルを設置。	愛知県赤十字血液センター
複数箇所においてお菓子を1カ所にまとめ、管理し易くした。	高知県赤十字血液センター
紙カップ自販機からペットボトルへ移行	福島県赤十字血液センター

コロナ禍における採血所の環境整備等についてお答えください

企業等への献血バス配車

コロナ禍において（2020年以降）強化した

献血バス内の人数を制限することにより、混雑を緩和した。受付等にアクリル板のようなものを設置し、飛沫を防止。	鳥取県赤十字血液センター
手指消毒、アクリル板の設置、採血ベッド等資材の消毒	富山県赤十字血液センター
受付時間割表の提案	岐阜県赤十字血液センター
事前予約の推進	徳島県赤十字血液センター
1稼働の実施企業の増加及び周辺企業からの協力	秋田県赤十字血液センター
手指消毒場所を増やし、蜜を避けた。	埼玉県赤十字血液センター
事前希望・時間割の作成	群馬県赤十字血液センター
企業担当者による3密を避けるための名簿（時間割）作成や予約献血	和歌山県赤十字血液センター
県、市区町村、企業へ移動採血の年間配車台数の増加を依頼。	愛知県赤十字血液センター
飛沫防止シートの設置	福島県赤十字血液センター

コロナ禍において（2020年以降）中止または縮小した

2024現在においても老健施設への配車はできない	沖縄県赤十字血液センター
工場・病院	大分県赤十字血液センター
企業の都合により中止会場多数	秋田県赤十字血液センター
2018年度1,131稼働⇒2020年度838稼働	千葉県赤十字血液センター
中止の要望があった	熊本県赤十字血液センター
中止連絡47件（2020年2月～2021年3月）	和歌山県赤十字血液センター
献血受入拒否、コロナ感染が社内で広まったため等	福井県赤十字血液センター
コロナ禍による感染拡大を恐れ、社内規則等により移動採血車の受入れを中止、制限される。	愛知県赤十字血液センター

公民館等への献血バス配車

コロナ禍において（2020年以降）中止または縮小した

中止の要望があった	熊本県赤十字血液センター
中止連絡10件（2020年2月～2021年3月）	和歌山県赤十字血液センター

商業施設等への献血バス配車

コロナ禍において（2020年以降）強化した

受入企業が減ったため、商業施設への配車を増やした	沖縄県赤十字血液センター
近年配車実績の無かった商業施設への配車並びに既配車商業施設への配車頻度増加	佐賀県赤十字血液センター
同上	富山県赤十字血液センター
街頭で献血を呼びかけた	大分県赤十字血液センター
商業施設側からの要望により、献血当日に健康管理表を作成して提出。受付場所に飛沫防止シートを設置。	愛媛県赤十字血液センター
メール DM	秋田県赤十字血液センター
2018年度413稼働、2020年度680稼働	千葉県赤十字血液センター
献血キャンペーンの増加	大阪府赤十字血液センター
ショッピングモールへの配車台数を増加させた。	宮城県赤十字血液センター
企業に配車できな分イオンやアリオなど配車依頼	東京都赤十字血液センター
献血会場が広く確保できるスーパー等の配車割合を全体の50%以上へ拡大（固定化）	和歌山県赤十字血液センター
コロナ禍においても安定的な協力が得られたため、積極的に街頭採血車を配車。	愛知県赤十字血液センター

コロナ禍における採血所の環境整備等についてお答えください		
高校への献血バス配車		
コロナ禍において（2020年以降）中止または縮小した		
学級閉鎖などの影響もあり、コロナ禍まっただなかでは受入高校が激減した。		沖縄県赤十字血液センター
高校の都合により中止		秋田県赤十字血液センター
中止の要望があった		熊本県赤十字血液センター
高校での受入れ中止が増加。		宮城県赤十字血液センター
中止連絡36件（2020年2月～2021年3月）		和歌山県赤十字血液センター
コロナ禍による感染拡大を恐れ、移動採血車の受入れを中止、制限される。		愛知県赤十字血液センター
大学・専門学校への献血バス配車		
コロナ禍において（2020年以降）強化した		
若年層献血者数確保するため、積極的に配車。		愛知県赤十字血液センター
コロナ禍において（2020年以降）中止または縮小した		
オンライン授業の登場で献血者確保が難しく配車を控えた。		沖縄県赤十字血液センター
大学・専門学校の都合により中止		秋田県赤十字血液センター
2018年度165稼働⇒2020年度17.5稼働		千葉県赤十字血液センター
中止の要望があった		熊本県赤十字血液センター
中止連絡36件（2020年2月～2021年3月）		和歌山県赤十字血液センター
コロナ禍による感染拡大を恐れ、移動採血車の受入れを中止、制限される。		愛知県赤十字血液センター
コロナの感染状況によって、大学での実施許可が下りないことが多く、実施回数が減少した。		高知県赤十字血液センター
オンライン事業に伴い、配車数の減少		福島県赤十字血液センター
キッズスペース/託児サービスの整備		
コロナ禍において（2020年以降）中止または縮小した		
キッズスペースの閉鎖		佐賀県赤十字血液センター
固定施設において書籍・キッズスペースの中止		群馬県赤十字血液センター
固定施設のキッズスペースを撤去		奈良県赤十字血液センター
キッズスペースの利用停止。		愛知県赤十字血液センター

コロナ禍における採血所の環境整備等についてお答えください

事前予約の推奨

コロナ禍において（2020年以降）強化した	
特に固定施設（成分献血）においては、予約優先の受付により混雑の緩和を目指した。	鳥取県赤十字血液センター
掲示物や報道にて	沖縄県赤十字血液センター
固定施設、移動採血における予約キャンペーンの実施	佐賀県赤十字血液センター
チラシ、メールを活用して周知した。	富山県赤十字血液センター
3密回避のため、依頼メールやはがき・ポスター等で事前予約を推奨した。	大分県赤十字血液センター
三密を避けるため、受付時間枠を設定した予約者名簿の作成を推進した。	岩手県赤十字血液センター
献血者が集中する（蜜になる）ことを避けるための時間を区切った事前予約	青森県赤十字血液センター
予約キャンペーンの実施。予約枠の増設	長野県赤十字血液センター
三密回避のために企業担当者へ予約推奨。	愛媛県赤十字血液センター
接遇時チラシを配布し説明	徳島県赤十字血液センター
移動採血車事前協力者名簿 固定施設接遇時の事前予約	秋田県赤十字血液センター
「3密を防ぐため」との勧奨メッセージを強化	石川県赤十字血液センター
電話予約枠の拡大	茨城県赤十字血液センター
密集・密接を避けるための事前予約のお願いを実施。（ラブラッド会員へのメール配信、チラシ掲載、ホームページ掲載）	千葉県赤十字血液センター
先方担当者への事前希望者と来場時間を取りまとめた。コロナ禍では完全予約制、完全予約制でなくなった後も予約の推奨をしている。	埼玉県赤十字血液センター
ラブラッドの活用、三密回避のための予約推奨	熊本県赤十字血液センター
予約特典キャンペーンの実施	奈良県赤十字血液センター
次回献血予約キャンペーンを展開し、予約の推奨を行った。	愛知県赤十字血液センター
予約キャンペーン（追加記念品）を常時準備している。	高知県赤十字血液センター

WEB予約システムの推進・普及

コロナ禍において（2020年以降）強化した	
掲示物や報道にて	沖縄県赤十字血液センター
固定施設、移動採血での勧誘強化	佐賀県赤十字血液センター
同上	富山県赤十字血液センター
予約枠の増加	滋賀県赤十字血液センター
HPやポスターに予約のリンクを載せるなどした。	大分県赤十字血液センター
7に同じく、三密回避のため会員に周知し予約推進を行った。	岩手県赤十字血液センター
予約枠の調整	徳島県赤十字血液センター
ラブラッド会員の募集	秋田県赤十字血液センター
予約枠の拡大	茨城県赤十字血液センター
本部からの資料を基に、予約による蜜を避けた感染対策を促した。	埼玉県赤十字血液センター
ラブラッドの活用、三密回避のための予約推奨	熊本県赤十字血液センター
入会強化（WEB予約を推進する）	群馬県赤十字血液センター
「ラブラッド」入会キャンペーンを実施	奈良県赤十字血液センター
来所された献血者にパンフレットを活用し、ラブラッド会員登録の推進に努めた。	愛知県赤十字血液センター
全献血者に予約方法を掲載したチラシを配布。	高知県赤十字血液センター
献血会場での密を避けるため、予約の推進	山口県赤十字血液センター

コロナ禍における採血所の環境整備等についてお答えください

その他

コロナ禍において（2020年以降）新たに始めた

設置物のアルコール消毒	沖縄県赤十字血液センター
アクリル板の設置、採血ベッド等資材の消毒	富山県赤十字血液センター
マスク着用、アクリル板・サーキュレーター等の設置	滋賀県赤十字血液センター
飛沫防止のビニールカーテンやアクリル板の設置	大分県赤十字血液センター
献血者と職員の間パーティションを設置し飛沫感染の対応をした他、受付タブレット等、手で触れるものを献血者が変わるたびに除菌処理を行った。	岩手県赤十字血液センター
待合呼び出し機器	青森県赤十字血液センター
テーブルにアクリル板の設置	長野県赤十字血液センター
移動採血車・固定施設飛沫防止シート アクリルパーティション	秋田県赤十字血液センター
アクリル板、ビニール幕の設置	茨城県赤十字血液センター
パーティションの設置	千葉県赤十字血液センター
飛沫対応のため受付場所に透明なアクリル板やビニールカーテンを設置し、都合に合わせてフェイスシールドを使用した。また採血室内への飲食物の制限を行った。	埼玉県赤十字血液センター
マスク着用	大阪府赤十字血液センター
対面となる場所でのパーティションの設置	群馬県赤十字血液センター
サーキュレーター・パーティション・物品設備の消毒等	東京都赤十字血液センター
固定施設においてイベントルームを開放し、待合室の空間を広くした	和歌山県赤十字血液センター
スタッフと献血者の間（受付、ベッド）にアクリル板等設置	奈良県赤十字血液センター
事務所、移動採血車内に飛沫防止パネルを設置。	愛知県赤十字血液センター
wifiの整備、カーテンの設置	福島県赤十字血液センター
採血車内にビニールのパーティションを設置し、献血者及び看護師間の感染対策実施	山口県赤十字血液センター

コロナ禍において（2020年以降）強化した

役所や国会に増車や増回依頼	東京都赤十字血液センター
受付場所がテント等屋外であれば、献血実施を承諾いただける事業所が一部見られた	奈良県赤十字血液センター
献血会場のレイアウトを、献血者同士の間隔を広めにとれるよう工夫	山口県赤十字血液センター

コロナ禍において（2020年以降）中止または縮小した

ルームでのイベント中止	滋賀県赤十字血液センター
お菓子の撤去	岐阜県赤十字血液センター
お菓子の撤去、献血者サービスの中止（占い、ネイルなど）	茨城県赤十字血液センター
ボランティアによる献血イベント 手相占いや骨盤矯正など	大阪府赤十字血液センター
バス・移動の入場制限	群馬県赤十字血液センター
全てにおいて縮小した	東京都赤十字血液センター
健診車の帯同	福島県赤十字血液センター

表6 その他、独自の採血場の環境整備等

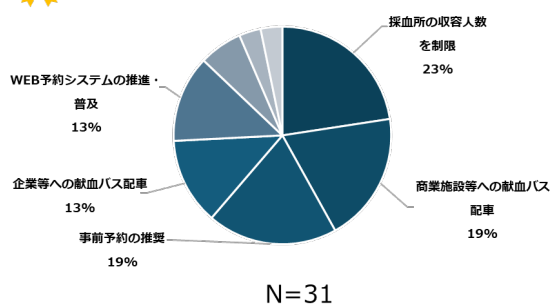
上記以外で独自に行っている採血場の環境整備等があれば教えてください					
血液センター	内容	始めた時期	良かった点	課題	効果評価
沖縄県赤十字血液センター	当時は対面する場所にパーテーションを設置していた。また、施設外で待機できるよう屋外設置用のテーブルとイスを整備した。フェイスガード、ゴーグル、使い捨て手袋を使用していた。	2020から	少しは献血者へ安心感を与えられた。	夏季と冬季など野外の環境が悪い場合、ダイレクトに影響を受けた。	効果的だった
長野県赤十字血液センター	移動採血車の換気やベッド毎の仕切り	コロナ過になりすぐ		仕切りがあると作業効率が低下する	どちらともいえない
宮城県赤十字血液センター	透明ビニールによる飛沫感染防止	2020年5月～	飛沫感染予防	看護師の作業効率低下	効果的だった
福井県赤十字血液センター	換気扇の取り付け	2020年	感染予防をしていることで献血者に安心して協力いただける		効果的だった

ポストコロナ時代における赤十字血液センターによる効果的な献血確保策の先進事例に関する全国調査2023
 コロナ禍での献血確保に対して特に効果的であったと思われる採血所環境整備

全国47血液センターのうち回答のあった31血液センター

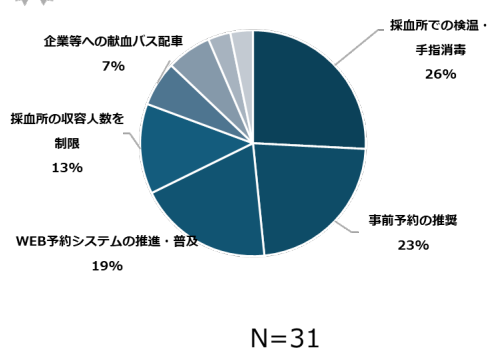
採血所の環境整備のうち、コロナ禍での献血確保に対して特に効果的であったと思われるもの上位3つを選んでください

第1位



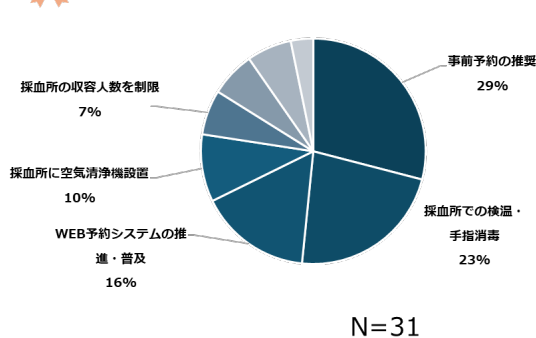
1. 採血所の収容人数を制限(23%)
2. 商業施設等への献血バス配車(19%)
3. 事前予約の推奨(19%)

第2位



1. 採血所での検温・手指消毒(26%)
2. 事前予約の推奨(23%)
3. WEB予約システムの推進・普及(19%)

第3位



1. 事前予約の推奨(29%)
2. 採血所での検温・手指消毒(23%)
3. WEB予約システムの推進・普及(16%)

図4. 採血所環境整備のうち、コロナ禍での献血確保に対して特に効果的であったと思われるもの上位3つ

表7. コロナ禍での献血確保に対して特に効果的であったと思われる採血所環境整備、上位3つ（具体的記載）

採血所の環境整備等のうち、コロナ禍での献血確保に対して特に効果的であったと思われる取組み_第1位	
採血所の収容人数を制限(N=7; 23%)	
	3密回避をPRすることで、献血の実施許可が下りた。（大学など）
	安心・安全な環境を提供することで、次回の協力を繋げることができた
	移動採血バス内の人数を制限することで事業所の受け入れ幅が広がった。
	献血者の方へ安心感を与えることができた。
商業施設等への献血バス配車(N=6; 19%)	
	近年配車実績の無かった商業施設への配車並びに既配車商業施設への配車頻度増加
	商業施設等の街頭会場に特化した予約キャンペーン等を強化
	政府の他県への渡航を控える呼びかけで、遠出できない関係からか、休日に商業施設に来る方が多く献血の呼びかけに応じて協力いただける方が多くあった。
事前予約の推奨(N=6; 19%)	
	献血者が集中する（密になる）ことを避けるための時間を区切った事前予約
企業等への献血バス配車(N=4; 13%)	
	コロナにより献血者確保が厳しいと知った企業の協力があつた。
	事前予約の推進
	受付時間割表作成の提案
WEB予約システムの推進・普及(N=4; 13%)	
	混雑や密を避けることができた。
	職員の対応が減少し、手間が減った
	予約枠の増加
	来所された献血者にパンフレットを活用し、ラブラッド会員登録の推進に努めた。
採血所での検温・手指消毒(N=2; 6%)	
	検温、手指消毒を徹底することや、実施していることを周知することで献血者に安心感を与えることができた
採血所に空気清浄機設置(N=1; 3%)	
その他(N=1; 3%)	
	記念品の提供（モバイルバッテリー）

採血所の環境整備等のうち、コロナ禍での献血確保に対して特に効果的であったと思われる取組み_第2位

採血所での検温・手指消毒(N=8; 26%)

安心・安全な環境を提供することで、次回の協力を繋げることができた

一般的なコロナ対策を実施することで事業所の受け入れ幅が広がった。

感染対策取組のPRもあり、安心されて献血される他、感染の疑いある方を未然に防ぐことができた。

献血者の方へ安心感を与えることができた

事前予約の推奨(N=7; 23%)

1日の採血見込みが立てやすい

3密回避をPRすることで、予約献血者が増えた。(献血ルーム)

固定施設、移動採血での予約キャンペーンの実施

事前予約することにより人数把握が出来た。

受付時の来場者の分散

予約特典キャンペーンの実施

WEB予約システムの推進・普及(N=6; 19%)

予約枠の調整

採血所の収容人数を制限(N=4; 13%)

車内の密を避けることができた。

人数制限を実施することで、献血者に安心感を与えることができた

企業等への献血バス配車(N=2; 6%)

商業施設等への献血バス配車(N=2; 6%)

コロナ禍においても安定的な協力が得られたため、積極的に地頭採血車を配車。

企業等から献血バス配車を断られた時の振替先

採血所待合室の共有物等の制限や撤去(N=1; 3%)

その他(N=1; 3%)

マスク着用、アクリル板・サーキュレーターを設置

採血所の環境整備等のうち、コロナ禍での献血確保に対して特に効果的であったと思われる取組み_第3位

事前予約の推奨(N=9; 29%)

固定の人数制限と予約システムの連動でドナーに安心して採血を行っていただいた

事前予約を三密回避のために推奨することで、受け入れ企業から安心感を持っていただいた。

次回献血予約キャンペーンを展開し、予約の推奨を行った。

接遇時にチラシを配布し説明

特に、固定施設で予約なしで成分献血に来られると混雑していた場合、待ち時間が長くなることから、予約を優先とした献血予約の推進を行い、予約される方が増えたことで待ち時間を減らすことにつながった。

採血所での検温・手指消毒(N=7; 23%)

衛生面のアピール

検温・手指消毒による安全な環境

出入口・問診室における検温実施、各所へのアルコール設置・手指消毒実施

推進したことで献血者も安心できた。

WEB予約システムの推進・普及(N=5; 16%)

「ラブラッド」入会キャンペーンを実施

Web予約による協力人数の把握

チラシの配布による予約推進。

予約を推進することで、会場の密を避けることに一定の効果があり、予約＝スムーズな献血というイメージにつながった

採血所に空気清浄機設置(N=3; 10%)

安心・安全な環境を提供することで、次回の協力を繋げることができた

予防

採血所の収容人数を制限(N=2; 6%)

採血所待合室の共有物等の制限や撤去(N=2; 6%)

椅子を間隔を空けて配置

三密防止のため椅子や机の間隔をあけることにより、献血者の方へ安心感を与えることができた。

商業施設等への献血バス配車(N=2; 6%)

その他(N=1; 3%)

表 8. 今後、献血確保のために計画している新たな取り組み

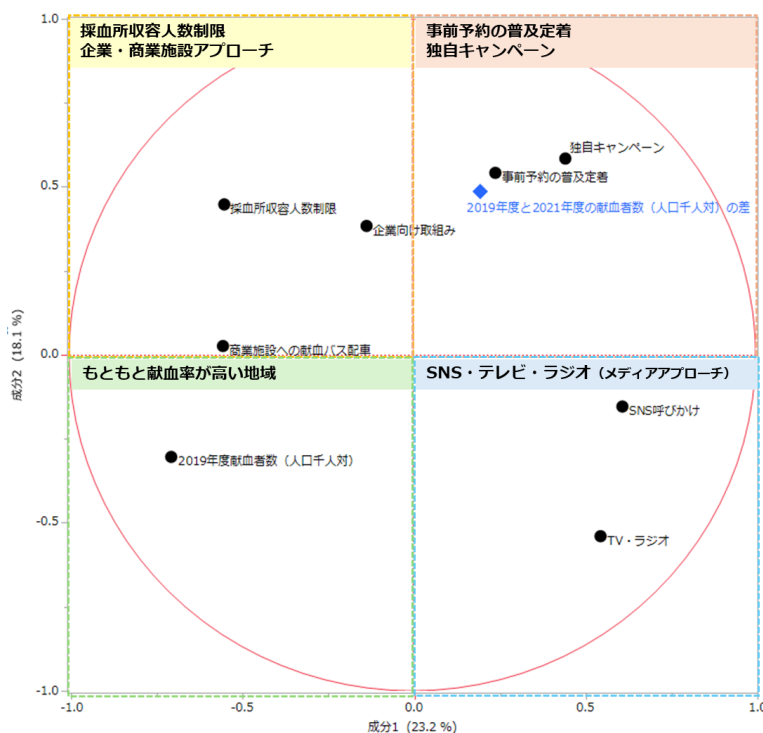
今後、献血確保のために計画している新たな取り組み等があれば教えてください	
感染拡大を懸念して献血を中止、または延期している事業所等を訪問し協力の承諾をいただく。	岩手県赤十字血液センター
プロスポーツ球団、ラジオDJとのコラボレーション等報道機関との連携を強化	宮城県赤十字血液センター
年1回の献血者を複数回誘導する施策	茨城県赤十字血液センター
・行政と連携した若年層向けの献血キャンペーンを検討中 ・新規団体及び、既存団体の増回のための推進活動を検討中	埼玉県赤十字血液センター
千葉県高等学校文化連盟放送専門部会と連携した献血啓発メッセージコンテストの実施（2023年度から実施）	千葉県赤十字血液センター
物品寄付の推進 イベント参入	東京都赤十字血液センター
団体からの各会場や固定施設への誘導案内	福井県赤十字血液センター
若年層献血の推奨 複数回の推奨	長野県赤十字血液センター
独自キャンペーンの実施、プロスポーツ団体との連携。移動採血車については、平日献血者確保に重要な職域献血の立て直しを図る。	愛知県赤十字血液センター
電車車両ジャックによる広報、駅構内にデジタルサイネージ	大阪府赤十字血液センター
「ラブラッド」会員獲得の強化（若年層も重点的に）	奈良県赤十字血液センター
高等学校において部活動を主体とした献血協力を依頼・実施している。	愛媛県赤十字血液センター
高校献血及び献血セミナーの実施数増加への取り組み	熊本県赤十字血液センター
コロナ禍で途絶えていた高校生を対象とした献血セミナーの実施や献血バスの配車の増加等「若年層の献血推進活動」に取り組む。	大分県赤十字血液センター
献血可能年齢以下の若年層への中長期的献血啓発活動	沖縄県赤十字血液センター

表9. コロナ禍での経験が、その後の献血確保に与えた良い影響

コロナ禍での経験が、その後の献血確保策に与えた良い影響について、教えてください	
コロナでの献血者確保に苦慮しているなかで、事業所担当者等からの献血への理解を深められた。	宮城県赤十字血液センター
職員の成長 献血予約の推進	秋田県赤十字血液センター
予約・定数制の定着	群馬県赤十字血液センター
・予約献血の推進に大きく拍車がかかったと感じる。□ ・原則、企業や団体に対して訪問を行うことにしていたが、コロナによりオンラインやメールでのやり取りが増えたことにより推進方法の選択肢を増やすことができた。	埼玉県赤十字血液センター
コロナ禍において、密集・密接を避けるために推進した献血の事前予約の取り組みが献血者に根付き、現在も待ち時間の短縮や天候に左右されにくい安定的な献血確保の一助となっている。	千葉県赤十字血液センター
環境整備への意識	東京都赤十字血液センター
蜜を避ける目的もあり、予約を強く推奨していたことにより、予約の浸透が図られた。献血予約率が大幅に上昇した。	福井県赤十字血液センター
予約の推進に繋がった。コロナを通して献血というものを知ってもらえる機会が増えた。	長野県赤十字血液センター
予約推奨による待ち時間の軽減、事前問診推奨による受付業務の軽減。移動採血車については、定期的なメール・はかぎによる献血依頼要請により、商業施設における献血者数が増加した。	愛知県赤十字血液センター
予約の推進	滋賀県赤十字血液センター
コロナの影響で献血に取り組む企業が減っているニュースを見た企業から献血に取り組む申し出があった。固定施設にて予約推進が進んだ。	大阪府赤十字血液センター
概ね全ての会場で事前予約に対する理解が深まり、Web予約が進んだ。	奈良県赤十字血液センター
企業における献血担当者による名簿作成から、一部Web予約に移行	和歌山県赤十字血液センター
衛生面について強化された面は継続しているため、安心してご協力いただける体制作りのきっかけになったと感じる。□ 成分献血に関しては、コロナ禍により予約制が根付いたため、固定施設での混雑の緩和・待ち時間の減少には良い影響を与えたと感じる。	鳥取県赤十字血液センター
企業を中心に献血実施の中止が相次いだが、そのような状況を知って新たに献血協力企業から声をかけていただくこともできた。コロナが落ち着いた今でも、継続して協力をいただいている企業もある。	山口県赤十字血液センター
ラブラッド利用者の増大。	高知県赤十字血液センター
予約献血が定着し、混雑・待ち時間の緩和に繋がった。	佐賀県赤十字血液センター
事前予約が浸透し、献血会場での混雑が緩和された。□ ラブラッド会員数の増加により、タイムリーな献血依頼ができるようになった。	熊本県赤十字血液センター
予約が普及したことや街頭での献血者の増加。	大分県赤十字血液センター
マスコミの影響力を知れた。	沖縄県赤十字血液センター

表 10 その他、ご意見

その他、ご意見
コロナ感染が拡大しているなかで、国が積極的に広報活動をして欲しかった。
将来的に安定した血液の確保・供給を継続していくためには、初回献血者の確保、複数回献血への誘導施策が必要。前者においては、献血を学校の授業のテーマ（科目）に加えるなど、教育の一環として献血を当たり前のものとしてとらえてもらえるような取り組みがあればと考えている。また、一度献血を経験した方が繰り返し来ていただけるような環境整備（ソフト面・ハード面）が必要であると考えている。
<ul style="list-style-type: none"> ・安定的な確保・供給の観点において事業運営が大変厳しい時期があった。コロナを経て一度中止した団体について、リモートワーク等による働き方の移行により再開していない場合もある。□ ・コロナによる高校献血は顕著に減少した。一方、コロナという緊急事態宣言が発出されるほどの状況下だったからこそ献血協力を申し出てくれる団体もあり、現在も継続して協力をしていただいている。
コロナ禍において、献血の意識が高まったのか、実績は少し上がったが、また献血協力者が減ってきている。継続的に献血に協力してもらえよう努めていく必要があると感じた。



**コロナ禍における献血推進の取り組み：
主成分分析に用いた項目**

- ・ テレビ・ラジオでの呼びかけ
- ・ 独自のキャンペーン
- ・ 企業等を対象とした取り組み
- ・ 採血所の収容人数を制限
- ・ 商業施設等への献血バス配車
- ・ 事前予約の推奨
- ・ SNSでの呼びかけ
- ・ 2019年度献血者数 (人口千人対)
- ・ 2019年度と2021年度の献血者数 (人口千人対) の差

図 4. コロナ禍における献血推進の取り組みに関する主成分分析結果

D. 考察

厚生労働省医薬・生活衛生局血液対策課と日本赤十字社血液事業本部の協力を得て、新型コロナウイルス感染症パンデミックの社会的影響下における赤十字血液センターの取り組みに関する全国調査を企画・実施し、以下の結果を得た。

1. 全国 47 都道府県の赤十字血液センター (N=47) を対象としたオンライン自記式アンケート調査を実施した。各血液センターにおいて、献血確保のための活動に従事する担当者を調査の対象者とした。
2. 31 都道府県の血液センターから回答を得た (回答率 66%)
3. 新型コロナウイルス感染症パンデミックが始まった 2020 年度に、年間献血者総数の減少が認められたのは、31 都道府県の血液センターのうち 4 センターのみだった。一方、残りの 27 都道府県 (87%) においては、献血者総数はむしろ増加していた。人口変化の影響を考慮するために、15-69 歳人口千人当たりの献血者数 (献血率) を年度別に比較した。その結果、29 カ所の赤十字血液センター (93.5%) で、2020 年度の献血率は 2019 年度と同等以上であった。
4. コロナ禍において (2020 年以降)、新たに始めた活動として最も多かったのは「SNS を含むインターネットでの呼びかけ (55%)」、強化した活動として最も多かったのは「企業を対象とした取組み (55%)」であった。中止または縮小した活動として最も多かったのは「幼少期の子どもとその親と一緒に献血に触れ合える体験学習の実施 (55%)」であった。効果的だったと思う活動については、「テレビ・ラジオでの呼びかけ」が最も多く 29%、次いで「献血推進のための独自のキャンペーンの実施 (26%)」「企業等を対象とした取組み (13%)」であった。
5. コロナ禍において (2020 年以降) 新たに始めた環境整備として最も多かったのは「採血所での検温・手指消毒 (90%)」、強化した環境整備として最も多かったのは「WEB 予約システムの推進・普及 (68%)」であった。効果的だったと思う環境整備については、「採血所の収容人数を制限」が最も多く 23%であり、次いで「商業施設等への

献血バス配車 (19%)」「事前予約の推奨 (19%)」であった。

6. コロナ禍での経験が、その後の献血確保策に与えた良い影響としては、「事前予約制の普及・定着」を指摘する意見が特に多かった (15/20)。主成分分析の結果からも、「事前予約の普及・定着」「独自キャンペーン」は、コロナ禍後の献血者数 (人口千人対) の増加に関連性の強い因子であった。

以上より、

本研究では、全国 47 都道府県のうち 31 都道府県の赤十字血液センターから回答を得て、新型コロナウイルス感染症パンデミックの社会的影響下における赤十字血液センターの取り組みについて明らかにした。

2020 年当時、パンデミックによって社会的にきわめて困難な状況であったにもかかわらず、93.5% (29/31) の血液センターでは、献血率をパンデミック前の水準以上に維持していた。「テレビ・ラジオでの呼びかけ」、「献血推進のための独自のキャンペーンの実施」、「企業等を対象とした取組み」、「採血所の収容人数を制限」、「商業施設等への献血バス配車」、「事前予約の推奨」などが特に効果的な取組みとして報告された。コロナ禍での経験が、その後の献血確保策に与えた良い影響としては、「事前予約制の普及・定着」を指摘する意見が多く、主成分分析の結果からも、「事前予約の普及・定着」「独自キャンペーン」は、コロナ禍後の献血者数 (人口千人対) の増加に関連性の強い因子であった。

本報告書では、各センターにおける具体的な取組みを整理して掲載した。各センターにおける効果的な取り組みが全国に共有されることで、今後の献血促進策の一助となることが期待される。

E. 健康危険情報

なし

F. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

なし